

**第3回 平成26年台風11号を踏まえた今後の出水対応を検討する会
議事概要**

1. 日 時：平成26年12月24日（水）10:00～12:15
2. 場 所：阿南ひまわり会館 2階 研修室（うめ）
3. 出席者：武藤 裕則（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 教授 座長）
長田 健吾（阿南工業高等専門学校創造技術工学科建設コース 准教授）
田村 隆雄（徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授）
湯城 豊勝（阿南工業高等専門学校創造技術工学科建設コース 教授）
近藤 義昭（阿南市防災対策課長）
森下 藤夫（那賀町地域防災課長）
赤松 薫（那賀川河川事務所長）
森 直紀（徳島県県土整備部河川振興課長）
4. 配布資料：
資料-1 議事次第
資料-2 配席図
資料-3 規約
資料-4 アンケート調査について
資料-5 今後の河川整備について
資料-6 長安ロダムの操作に関する分かり易い住民説明に対する工夫について
資料-7 今後の対応について
参考資料
5. 議事要旨：
 - (1) 台風11号出水が過去最大となった理由は次のとおりである。
 - ①台風12号による先行降雨があったこと
 - ②台風11号の降雨波形が特徴的で後方集中型であったこと
 - ③那賀川本・支川の流出のピークが合致したこと
 - ④その他残留域から、かなりの流出があったのではないかと考えられること
 - (2) 台風11号における長安ロダムの操作について①予備放流②異常洪水時防災操作（ただし書き操作）③貯水池容量の有効活用の観点から検討した結果は次のとおりである。

- ①ダムの操作は、現状における長安口ダムの能力、制約の中で最善を尽くしたものであり、結果的に最大放流量に達することは避けられなかった。
 - ②ダム操作の説明については専門的で一般には解りづらいところもあるため、平時より施設能力を踏まえた分かり易い説明を続けていく必要がある。
- (3) 段階的な河川整備に伴い生じる計画と整備途上での治水安全度のギャップを埋めるための対策としては、現状では避難行動に頼らざるを得ず、そのための支援策として次の対応を進める。
- ①災害関連情報の種類、内容、伝達方法等の見直し
 - ②事前防災行動計画（タイムライン）の作成
- (4) タイムラインについては、本会議で提示された阿南市版を基本とし、関係者間で認識の統一や内容の充実をはかり、平成 27 年の出水期までに作成することを要望する。

以上